

平成28年度 久留米工業大学教育研究推進外部評価委員会議事概要

1. 日 時：平成28年12月9日(金) 15時00分から17時20分

2. 場 所：100号館9階多目的ホール

3. 出席者：外部評価委員7名

落合英俊委員長(九州大学名誉教授)

三川譲二委員(久留米工業高等専門学校校長)

立野秀紀委員(浮羽工業高等学校教頭)

岸本吉史委員(ダイハツ工業(株)取締役専務執行役員)

石丸茂夫委員(日米ゴム(株)代表取締役社長)

穴見英三委員(久留米商工会議所専務理事)

國武三歳委員(久留米総合政策部長)

：学内出席者11名

今泉勝己学長、高橋雅仁副学長、井川秀信学長補佐、白石 元学長補佐、河野 央学長補佐、平野貞三学長政策顧問、各学科長、事務局次長、学生サービス担当次長及び各課長

4. 議事進行

議 題 1. 「2021年ビジョンについて」 高橋副学長説明
2. 「教育の現状について」 井川学長補佐説明
3. 「入学者確保及び就職について」 河野学長補佐説明

報告事項 1. 「ブランディング事業申請について」 東インテリジェントモビリティ研究所長説明

5. 講 評

落合委員長より講評

委員会での議論の内容について、幾つかのキーワードを使いながら項目を挙げて講評する。

総括として、これまでの取り組みはたいへん意欲的に行われていると評価する。今後とも同様の姿勢で当校の教育・研究・社会連携・管理運営に取り組んでいただきたい。

入学者の確保については、特に理工系人材、女子学生の確保に今まで以上に意欲的に取り組んでいただきたい。

全体の運営として、エンロール・マネジメント（総合的な学生支援策）についてはたいへんよくやられており、今後とも続けていただきたい。低学年生を対象にした取り組みに力を入れてほしい。

地域との連携を更に推進していただきたい。今回、ブランディング事業に申請されたIMLでは全学的に取りまとめをされているので、それを核として、今後とも地域との連携を更に推進していただきたい。産・学・官のいずれに対しても、久留米工大が主体的な立場でやっていただきたい。

教育と研究の分離については、分離と言っても言うのではなく、表現を少し工夫したほうが適切と思われる。

大きな取り組みの視点として、グローバル化は世界的な潮流であるので、ぜひ十分な配慮をしてほしい。その際に欧米だけでなく、アジアの新興国に対しても十分配慮していただきたい。留学生の確保は有効な方策であり、今後とも進めていただきたい。

以上、委員会の講評とする。